

米国映画「コンティジョン」



日本向け映画ポスター

2011年9月、約10年前に封切られた米国のスリラー映画“Contagion(伝染)”，は「恐怖はウイルスよりも速く感染する」のキャッチコピーで2240万ドルの興業収入を得てランキング1位を獲得した。『オーシャンズ』シリーズや『トラフィック』のステイーヴン・ソダーバーグ監督が、地球全体を恐怖に陥れるウィルスの恐怖を豪華俳優陣で描くサスペンス大作。

接触によって感染する強力な新種のウィルスが世界各地に拡大していく中で、社会が混乱し人々が異常なパニックを起こす等現在の新型コロナウイルス騒動とそっくりである。

映画のあらまはは次の通りである。

『仕事で香港に出張した女性ベスは米国に帰国直後、ミネアポリス郊外の自宅で体調不良を訴え病院で死亡する。自宅にいた継

子のクラークもそっくりな症状で死亡する。

ベスと同様の事例が世界各地で相次いで発生し、世界保健機関（WHO）や米国の疾病予防管理センター（CDC）など関係各機関は、未知のウィルスの特定とワクチンの開発に乗り出す。しかしウィルス拡散のスピードは非常事態の収拾よりも速く、世界各地で大勢が命を落としていく。

CDCのヘクストール女史が、ウィルスがブタ由来の遺伝物質とコウモリウィルスの合成物であることを突き止めるが、臨床試験の手間を省くため、ヘクストール女史が自分自身に開発中のワクチンを注射して、感染患者の父上を見舞うが彼女は感染せず、ワクチンの有効性が証明された。

CDCはワクチン接種の順番を余りにも多すぎるので誕生日による抽選とする。この時点で、全米では250万人、全世界では2600万人が死亡する。

映画の終幕の回想シーンでは、香港でベスが感染する数日前、ベスが取締役をしていた会社のブルドーザーが森林の木をなぎ倒すと、コウモリが飛んで逃げていく。その1匹が豚小屋に飛び込みバナナのかげらを落とす。そのバナナをブタが食べる。ブタは屠殺されて、それを調理したコックがカジノでベスと握手をして、ウィルスが彼女に感染するストーリーが描かれている。』

この映画を現在の新型コロナウイルスの騒動と比較すると、発生地が香港と武漢との相違があるもののいずれも中国であり、発生源がコウモリの遺伝子変異である。伝染のスピードが非常に速い。全世界の死亡者が非常に多い。米中でワクチンの開発競争が起きている等、類似点が非常に多い。

この映画は、現在も映画配信サイト、Amazon PrimeVideo や Rakuten TV で見ることができる。（川島順）